

Daniel's Journey Out of Autism

By Lori Knowles

ダニエルの自閉症克服までの道のり

ローリ・ノールズ

私の4番目の息子ダニエルは1998年3月20日に生まれました。彼の上には2人のお兄さんと一人のお姉さん、典型的な兄弟がいました。彼は赤ん坊としてごく普通で、ただ座ったり、這ったり、歩くのに少し時間がかかったように思いましたが、14ヶ月目でなんとかそれらもできるようになりました。唯一の問題と思ったことは、10ヶ月の頃に喘息を患い、湿疹が出たり便秘をするようになりました。少なくとも30ほどの言葉を話していましたが、2歳になる頃にはそれらの言葉は話さなくなりました。理由もなく、ただ泣くことが多くなりました。おもちゃで遊ばなくなり、ただ一日中ビデオを見たがるようになりました。彼は顔がなんとなくいつもどんよりとしていて、私たちが言おうとすることの多くを理解していないように感じたことを覚えています。その時でした。否定しながら生き続けるのではなく、この大切な子に何か起こっているという現実に向き合うべきだと感じたのは。インターネットで調べ、自閉症の症状が、ダニエルのものと一致することに気づきました。泣き、一週間は悲しみに打ちひしがれ、この子がもう普通になることが無いという現実を受け止めようとしていました。

最初に希望が見え始めたのは、ダニエルのスピーチセラピストがショー博士の本「自閉症と広汎性発達障害の生物学的治療法」を貸してくれたときでした。さらに、二人の知人が電話で、自閉症や広汎性発達障害(PDD)をもつ子供の食事から麦類や乳製品を取り除いたところ、彼らは話し始めたと教えてくれました。私はそれを聞いたとき困惑し、絶対にできないと感じたのを覚えています。ショー博士の本を読むことは、どんなに困難であったとしても、私が息子を助ける全てのことを行う決意をするために必要なことでした。ダニエルを医者連れていき、有機酸検査、広範囲CS分析、そして食物アレルギー検査を行いました。自閉症をもつ多くの子供たちと同じように、彼はイースト、細菌、寄生菌やたくさんの食物アレルギーをもっていることが分かりました。ダニエルに抗イースト・真菌療法をはじめ、グルテン(麦に含まれるたんぱく質)や乳製品、またその他の問題を引き起こしていた食物を食事から取り除くダイエットはじめたところ、彼は目に見えるように良くなっていきました。ダイエットをはじめ一週間後、彼は言葉を使いはじめ、それから毎週良い効果が見られました。徐々に泣くこともなくなり、どんよりとした目がはっきりとした目になり、喘息、便秘や湿疹もなくなっていきました。そして私たちが言うことを理解できるようになっていったのです。セラピストはこの改善を信じられないように見えていました。

ダイエットをはじめ2ヵ月後、私たちは専門家のチームによるダニエルの診断をつけてもらうため、予約を取りました。ダニエルは大きな前進を見せましたが、軽度自閉症と診断されました。私は、もし食事療法を実践していなかったら、ダニエルはどれほど重度なレベルの診断を受けていただろうと感じました。そして、私たちの小さなこの息子がいつか普通に暮らしていけるチャンスがあるかもしれないと勇気をもって望んでいくようになりました。

そして、今日ダニエルは7歳になります。グルテン/カゼインフリーダイエットは4年以上行っています。サプリメント療法、解毒、イースト・真菌療法、行動療法によってダニエルは大きな前進を見せています。自閉症状のほとんどはなくなり、普通の子のように社交性をもって遊んでいます。彼は笑い、思いやりがあり、そしてとても賢く、彼の存在が私たち家族の喜びでもあります。彼は普通学級に入り、IEP(個別教育計画)も今は必要としていません。読みも年相応、またそれより高いレベルで学んでいて、友達もたく

さんいます。私は、自閉症のための生物学的治療法を学び、それをダニエルが幼い頃から実践してきた本当によかったと思います。私は現在この経験をもとに、「ニュー・ビギニング・サプリメント(NBN)」のマネージャーとして、多くの保護者の方の助けになりたいと思っています。NBNでは、選出された栄養サプリメントを自閉症をもつ子供に提供することを専門としています。私のゴールは、できるだけ多くの保護者にどのような治療法が有効かを学んでいただけるよう教育し、またそのサポートを行っていきたいと思います。下の写真は、以前のダニエルと現在のダニエルの違いがはっきりと表れています。

ダニエル(2歳)



ダニエル(3歳)



ダニエル(6歳)



ローリは、彼女の息子の自閉症を通じた体験談を、「統合医療がもたらす効果：自閉症、広汎性発達障害(PDD)とAD(H)Dへの対処法」と題して、会議などでウィリアム・ショー博士(グレートプレインズ研究所所長)と共に講演しています。

会議のスケジュールは、当研究所のHPをご覧ください。

www.greatplainslaboratory.com.